

いじめ根絶のために ～「いじめ対策チーム」委員会議開催～

いじめは命や人権にかかわる重大な問題であり、人として決して許されない行為です。そのため、児童生徒がそれぞれの発達段階に応じて、命の大切さや人間としての在り方・生き方を身につけ、いじめをしないさせない人間として成長してくれることが私たちの願いです。

こうした中でいじめについての本県の実態を検討・協議するため、平成18年11月24日に県内の小・中学校、高等学校の児童会・生徒会代表、PTAや子ども会の代表、校長会代表など16名の委員からなる「いじめ対策チーム」を立ち上げ、その後毎年会議を開催してきました。本年度は8月と1月に2回開催しました。



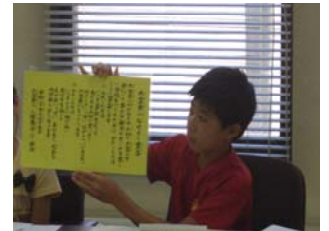
第1回「いじめ対策チーム」委員会議(平成21年8月27日)

ー 各校の取組みの報告 ー

児童・生徒の委員から、次のような報告がありました。

○取組み

- ・いじめ根絶バッジ: いじめ根絶の宣言書を書いた生徒全員に配布。いじめをなくそうという気持ちをいつも心に留めておいてもらうことができました。
- ・お悩みボックス: 表に現れないいじめの早期発見、早期対応をするために設置。生徒会役員が週に2回開封して回答したり相談にのったりしています。
- ・なかよし宣言: みんなから募集したいじめ根絶のための言葉をもとに宣言文を作成。各教室に掲示しています。
- ・アンケートの実施: 月ごとにアンケートを実施し、結果を生徒会新聞に掲載しています。またポスターの制作もしています。



○感想

- ・今、私たちの学校にいじめをなくそうという思いが流れています。
- ・最初はいじめ根絶という大きな目標に不安もありましたが、活動を通じ目標に近づいていることが実感できます。
- ・あきらめずに前向きに取り組んでいる姿勢が私たちの一番いいところです。
- ・「なかよし宣言」にある「いつも勇気をもって友だちを大切に思いやり」の部分が大好きです。いじめられている人を見たら、勇気をもっておかしいと言いたいです。

ー 子どもから・学校から・家庭から・地域からのメッセージ ー



- ・子どもから: 相手の気持ちがわからないから、相手が傷ついているのがわからない。相手とのコミュニケーションが大切だと思います。大人とかかわっていくことで僕たち子どもは成長し信頼を受けるようになります。信頼を感じると不安がなくなります。親や地域の人とコミュニケーションを取ることでいじめ減少につながると思います。
- ・学校から: 日常の活動によりお互いにコミュニケーションがとれる関係性の確立が大切です。また何事も生徒が主体的に活動することが大切で、そのために学校・保護者・地域が連携し子どもたちの健全育成に努めることが大切です。
- ・家庭から: 保護者の意識が子どもたちの意識より低いように感じられます。いじめは身近にあるんだということをもっと自覚すべきです。いじめの要因は様々ですが、その一つに我々親の会話や価値観であることも考えられます。親として子どものモデルとなる生き方を真剣に考えるべきです。
- ・地域から: 地域行事や挨拶を通して大人と子どもの顔と名前が一致する体制を作ることが、いじめ根絶につながります。

第2回「いじめ対策チーム」委員会議(平成22年1月6日)

ー きらめき滋賀子どもトライアングル(学校・家庭・地域の連携) ー

第1回委員会議での子どもを見守る三者(学校・家庭・地域)からのメッセージを受け、今後『大人の見守り体制を再構築し、社会全体で子どもたちをいじめから守るための体制』を強化し、子どもたちを大きく包み込む環境を学校・家庭・地域で作りを目的とした「きらめき滋賀子どもトライアングル」を提案し協議しました。



まず、地域代表の方から学校との連携のために実施されています「顔と名前が一致する街作り」活動についての説明があり、その中で、子どもと大人がお互いに顔見知りになり、地域の方が子どもの顔色までわかるようになったという報告がありました。子どもたちからは、自分の名前を覚えてもらうとうれしいし、声をかけていただいたり、話を聞いていただくと心が落ち着くという感想がありました。

また、地域における活動について、高校生からは部活動等で参加しにくい面もあるが、地域の行事があれば、遠慮なく声をかけてほしいという意見が出され、保護者からは、高校生は大人という意識になり、どうしても関わりが薄くなってしまいが、高校生はまだ子どもであるという意識で地域の方にも見守ってほしいという意見が出されました。

今は大人も子どもも孤立しています。地域にもっと出て行くことが大切で、家庭と地域が連携をとり、地域でのつながりを深めることが安心な街作りの第一歩ではないでしょうか。そういう意味ではいじめは大人の問題といえますという意見もありました。

更に、大きなことではなく日常の身近なことがすべてのことにつながっています。子ども・学校・家庭・地域で互いに直接顔と顔を合わせてコミュニケーションを取り、身近なことから取り組むことがいじめ根絶につながると思います。等活発な意見が交わされました。

最後に、今求められているのは、子どもを含めて学校・家庭・地域の心のつながりです。この三者が連携し合っずばらしい音色のトライアングルがみんなの心に鳴り響くよう取り組んで行くことを確認して会議を終えました。

